

平成28年7月14日(木)

老球の細道250

うれしい出来事

会津バスケットボール協会 室井 富仁

砂漠の中のオアシスとは大げさだろうか。最近うれしい出来事が二つあった。

【その1】先日A高校で「シュートクリニック」を行った。男女とも県総体出場を逃がし、1、2年生の新チームで新たな出発に向けて、コーチ、プレイヤー共々意欲的な雰囲気だった。シュートに関しては目立ったタレントプレイヤーはいなかったが、A高校の伝統だろうか、皆熱心に、細かいところまで手抜きをしないで取り組んでくれた。3時間にわたって行われたクリニックであったが、集中力を切らさずによくがんばっていた。

最も集中力を切らさずに頑張ってくれたのは副顧問の若いC先生だった。最初のウォーミングアップにおけるコーディネーションドリルで男子に入って張り切っていたが、先生の体力、体型などを考慮して女子のほうに移動してもらった。

C先生はバスケットボール未経験なので、是非この機会に自分も正しいシュートを学びたいということで短パン、Tシャツの雄姿に着替えて参加してくれた。さすがに若い先生だった。疲れた様子も見せず、休みもしないで最後までメニューをこなした。生徒よりも上達が早く、とても楽しく参加できましたと感想を述べてくれたことには私も感激した。

近年、中学校、高校にはバスケットボール未経験の先生がバスケットボール部の顧問になるケースが多い。そのような先生たちは「バスケット素人ですから」と言いながら、常に距離を置き、当たり障りなく顧問を勤め上げて終わりとする先生が多い。次の年も、また次の年も顧問になっても「素人ですから」と言って、審判、コーチなどには深入りせず、常に距離を置きながらバスケットボール、選手たちと接する。

このようなご時世の中で、選手と一緒に身体を張って学び、頑張ろうとする姿勢は近年まれにみる光景だった。このような若い顧問の先生が増えてくれれば、生徒たちは大いに勇気づけられ、会津のバスケットボール界も大きく変わっていくだろう。

【その2】7月3日(日)郡山で「JBA公認コーチ・リフレッシュ講習会」が開催された。今年もバスケットボール家庭教師「エルトラック」の鈴木良和氏が講師だった。テーマは、ドライブで抜き去った後ヘルプに来るディフェンスをかわしてシュートを決める「シュートフィニッシュ」。鈴木氏は世界のバスケットボールに精通しているところから、今年度日本バスケットボール協会のU-15以下のコーチングスタッフに抜擢された。若いながら行動力と決断力、そして語学力と企画力に富み、月刊バスケットボールにおいても彼の技術解説が毎月特集され、全国から注目される存在となっている。

コーチは常に研修をして指導力の研鑽向上に努めなければならない。今年は坂下ミニバスケット出身の保護者Fさんが参加していた。私のクリニックにも常に参加してコートに立ち熱心に指導してくれていた。また日常の練習においても二瓶、鈴木新両コーチの薫陶を受けているので、バスケの深さ、指導の面白さにはまってしまったのだろうか。

昨年は公認コーチのライセンスを取得し、今年は早速リフレッシュ講習会まで参加して勉強している。このような保護者の方々がたくさん育ってくるとコーチの方々もさらに勉強をしないと立場がなくなる。その結果コーチの指導力が向上し、日本のバスケットボールの未来も明るくなることだろう。